

C-10 胸部外科選択プログラム

概要

(1) 胸部外科選択プログラムは、選択科目として同科を選択する場合の研修プログラムである。心臓血管外科・呼吸器外科および乳腺・甲状腺外科を主たる対象としている。

(2) 選択期間中には指導医と相談の上、研修医一人ひとりが自分のキャリア育成に合致したSBOsを設定することができる。一方で、選択科研修中においても、中央病院プログラムが2年間で必要と定めた中央病院一般目標GIOならびに行動目標SBOs(EPOC)の達成度を上げる必要がある。

指導責任者：森本 啓介

目標

一般目標(胸部外科選択研修GIO)

将来遭遇しうるいかなる状況においても思いやりを持ちながら良質な全人的医療を行うために、外科疾患の知識・診断・技術を習得することを通して、将来の専攻する診療科にかかわらずプライマリケアの臨床に必要な基本的診療能力(態度、技能、知識)を修得する。

行動目標(胸部外科選択研修SBOs)

個人が決めるSBOs

診療科が薦めるSBOs

EPOCで定める目標

EPOCで定める目標

1. 胸部外科で必ず修得しなければならないEPOC項目(マトリックス表で)

A-2-3 胸部の診察(乳房の診察を含む)

A-4-9 穿刺法(胸腔、腹腔)

A-4-11 ドレーン・チューブ

B - 2 経験すべき症状、病態、疾患

B-3-5 循環器系

(2) 狭心症、心筋梗塞

(5) 弁膜症

(6) 動脈疾患

B-3-6 呼吸器系

(6) 胸膜、縦隔、横隔膜疾患

2. 胸部外科で修得するのが望ましいEPOC項目(マトリックス表で)

A-1 医療面接

A-2-1 全身観察

A-3-1 尿検査

A-3-3 血算・白血球分画

A-3-4 血液型判定・交差適合試験

A-3-5 心電図(12誘導) 負荷心電図

A-3-6 動脈血ガス分析

A-3-7 血液生化学検査

A-3-9 細菌学的検査・薬剤感受性検査

A-3-10 肺機能検査

A-3-12 細胞診・病理組織診断

A-3-17 X線CT

A-3-18 MRI検査

A-4-8 穿刺法((腰椎)

A-4-14 創部消毒

A-4-16 皮膚縫合法

- | | |
|-----------------|----------------|
| A-4-17 軽度の外傷・熱傷 | A-6-5 紹介状、返信 |
| A-5-2 薬物療法 | A-7-1 診療計画作成 |
| A-5-3 輸液 | A-7-2 診療ガイドライン |
| A-6-1 診療録作成 | A-7-3 入退院適応判断 |
| A-6-2 処方箋、指示箋 | A-7-4 QOL 考慮 |
| A-6-3 診断書、死亡診断書 | |

B - 1 経験すべき症状、病態、疾患

- B-1-19 胸痛
- B-1-21 呼吸困難
- B-2-6 急性心不全
- B-2-7 急性冠症候群
- B-2-13 外傷

B - 2 経験が求められる症状・病態

- B-3-5 循環器系
 - (1)心不全
 - (7) 静脈・リンパ管疾患

C 特定の医療現場の経験

- C-1 救急医療(救急医療の現場を経験すること)
 - (1)バイタルサインの把握ができる
 - (2)重症度、緊急度の把握ができる
 - (3)ショックの診断・治療ができる
 - (5)高頻度救急疾患の初期治療ができる
 - (6)専門医へのコンサルテーションができる
- C-6 緩和ケア・終末期医療(臨終の立ち会いを経験すること)
 - (1)心理社会的側面への配慮ができる
 - (2)治療の初期段階から基本的な緩和ケアができる
 - (3)告知をめぐる諸問題への配慮ができる
 - (4)死生観・宗教観への配慮ができる

3. 全ての科で目標とする項目(マトリックス表では)

- I.医療人として必要な基本姿勢・態度
 - (1)患者-意思関係、(2)チーム医療、(3)問題対応能力、
 - (4)安全管理、(5)症例呈示、(6)医療の社会性

方略(LS)・評価(EV)

B-12 外科(必修) - **胸部外科**プログラムを参照

また mini-Peer Assessment Tool (mini-PAT) に評価を記載し、プログラム責任者に報告する。